

【中島公園魅力アッププラン（素案） 項目】

- 1プランの目的・位置づけ
- 2公園の概要
- 3公園の魅力
- 4公園の課題
- 5コンセプト・公園のあり方
- 6目指す方向性
- 7取組の方向性

1 プランの目的・位置づけ

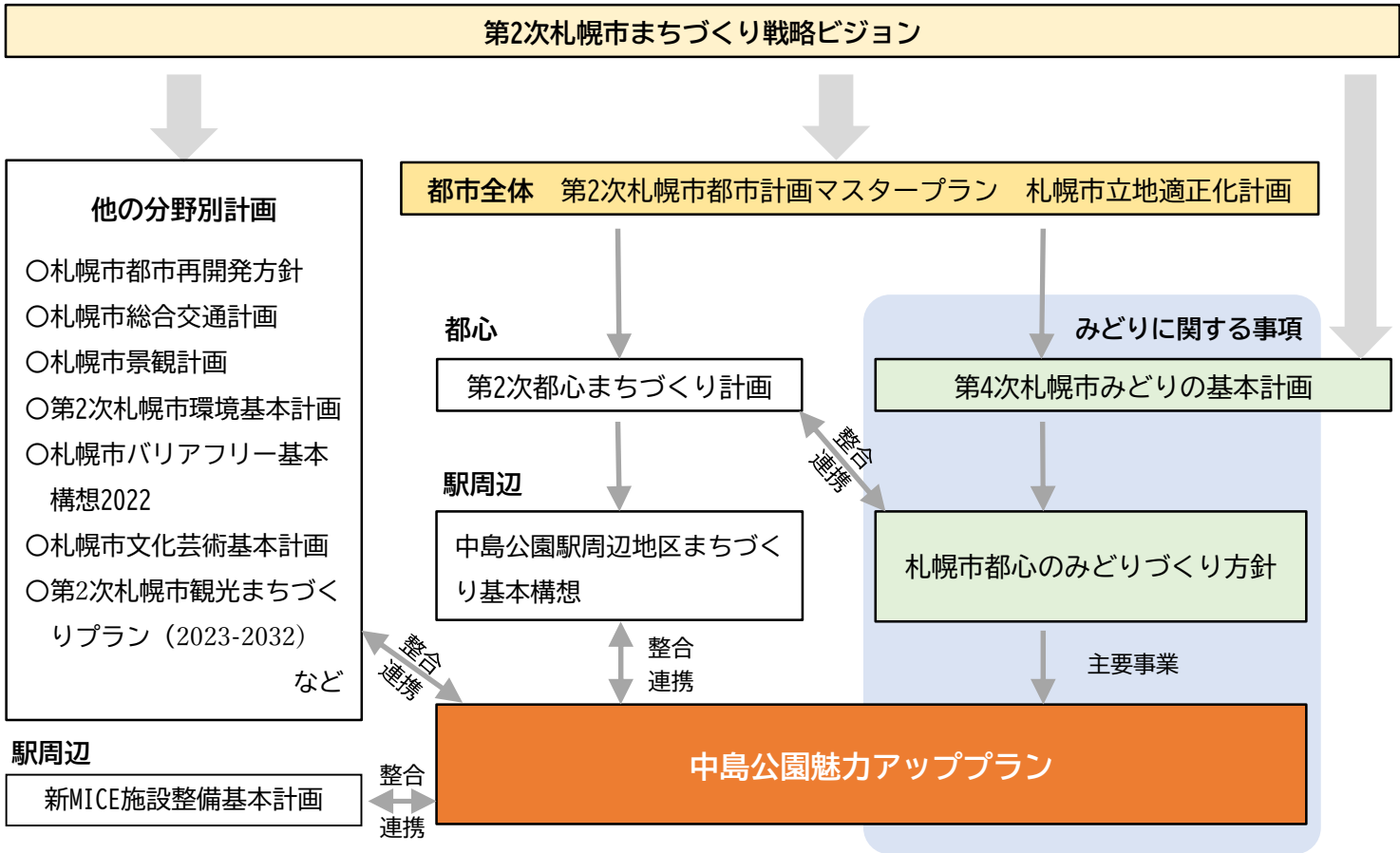
① 目的

中島公園周辺エリアについて、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、「市民の憩いの場や国内外からの来訪者を含めた交流の拠点として、都心部の貴重なみどりの魅力を向上させるとともに、集客・交流機能や芸術・文化機能の強化を図」る高次機能交流拠点として位置付けた。

また、札幌市都心のみどりづくり方針では、重点エリアと位置付け、この取組として、「中島公園の魅力アップに向けた機能の強化」を図ることとした。

このような背景から、中島公園魅力アッププランは、公園の長い歴史を踏まえつつ、公園及びその周辺等の現況、そして、周辺の開発等による将来的な来訪者の増加を見据え、更なる魅力アップを図るための目指す方向性とソフト施策を中心とした取組を示すことを目的としている。

② 位置づけ



2 公園の概要

① 『中島』の由来

- ・中島公園の『中島』という名の由来は、豊平川の流れによって生まれた地形的な特徴に関連している。
- ・定山溪の溪谷を流れ下ってきた豊平川は、藻岩山の脇に差し掛かる辺りで川幅を広げ、広大な扇状地を形成した。札幌のまちはその肥沃な扇状地に築かれ発展してきた。
- ・豊平川の流路は、本流だけでなく様々な分流があったと言われているが、明治の初めにはその分流である鴨々川と本流に挟まれた地域を「鴨々中島」と呼び、本流の対岸の地域である「中島(なかのしま)、後の中の島」と区別されていた。『中島』は「鴨々中島」に由来している。

② 沿革等

名 称		中島公園
種 別		総合公園
所在地		札幌市中央区中島公園、南14条西5丁目、南15条西4丁目
面 積		236,295㎡
現在の主な構成要素	子ども向け施設	中島児童会館、こども人形劇場こぐま座、遊具、鴨々川水遊び場
	歴史・文化施設	豊平館（国指定重要文化財）、八窓庵（国指定重要文化財）、札幌コンサートホールKitara 北海道立文学館、天文台
	運動施設	中島体育センター、中島庭球場
	水辺・庭園	鴨々川、菖蒲池、日本庭園
	記念碑等	彫刻、碑像、モニュメント（計14か所）
沿 革	明治 4(1871)年	鴨々中島に豊平川から流送した木材を貯める貯木場（元右衛門堀、後の菖蒲池）を設置
	明治20(1887)年	太政官布達（国内初の公園制度）による札幌初の公園「中島遊園地」として整備 北海道物産共進会を開催、エドウィン・ダンの設計による中島遊園地競馬場を開設
	明治21(1888)年	料亭・大中亭が開店、その後数店が開店し賑わいをみせる
	明治22(1889)年	岡田花園が開園、水天宮の社殿を建立
	明治40(1907)年	東京市の技師・長岡安平が公園を設計、札幌招魂社（札幌護国神社）を建立
	明治43(1910)年	「中島公園」に改称
	明治45(1912)年	彌彦（伊夜日子）神社を建立
	大正 7(1918)年	開道50年記念博覧会を開催、馬鉄が電車化され中島公園まで延伸、中島球場を整備
	大正 9(1920)年	本格的なスケートリンクを整備
	大正12(1923)年	製氷場を水泳プールとして整備
	昭和 3(1928)年	NHKラジオ放送局が開局し、北海道初のラジオ放送開始
	昭和 6(1931)年	国産振興北海道拓殖博覧会を開催
	昭和24(1949)年	米軍からかまぼこ型兵舎の払下げを受け中島児童会館が開館
	昭和29(1954)年	中島スポーツセンターが開館、第9回国民体育大会秋季大会を開催
	昭和32(1957)年	総合公園として告示
	昭和33(1958)年	豊平館を園内に移築、北海道大博覧会を開催、中島子供の国が開園、札幌市天文台を開設
	昭和37(1962)年	札幌神社（北海道神宮）例大祭（札幌まつり）の露店等を設置
	昭和38(1963)年	日本庭園が開園
	昭和39(1964)年	豊平館が国の重要文化財に指定
	昭和46(1971)年	八窓庵を園内に移築（国の重要文化財指定は昭和25年） 地下鉄南北線が開通し中島公園駅・幌平橋駅が開駅
	昭和51(1976)年	札幌市こども人形劇場こぐま座を開設
	昭和55(1980)年	冬のスポーツ博物館が開館
	昭和57(1982)年	歩くスキーコースを設置
	平成元(1989)年	日本の都市公園100選に選定される、北海道マラソンのゴール地点となる
	平成 2(1990)年	さっぽろ雪まつり第4会場となる
	平成 7(1995)年	北海道立文学館が開館、中島公園再整備基本計画に基づく大規模な再整備開始
	平成 9(1997)年	札幌コンサートホール Kitaraが開館
	平成19(2007)年	日本の歴史公園100選に選定される
	平成30(2018)年	新MICE施設整備基本計画を策定
	令和 3(2021)年	中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想を策定
	令和 4(2022)年	Pokemon GO Fest 2022 Sapporoを開催

利用者ニーズ(望むサービス・施設)

利用者ニーズ(望むサービス・施設)	件数
1	140
2	27
3	20
4	62
5	25
6	34
7	12
8	11
9	95
10	74
11	77
12	44

3 公園の魅力

- ・中島公園は、都心部に立地し、広大な緑地と歴史性を持つ都市公園である。約23万㎡の敷地には自然豊かな水と緑の空間が広がり、都心部にいながら四季折々の風景に心を奪われていく。
- ・明治40年、公園設計の第一人者であり公園行政のパイオニアといわれる長岡安平により、「池泉回遊式庭園」として設計された。様々な変遷があるものの、現在も形をとどめその設計思想が生かされている。
- ・市民の日常的な憩いの場であるとともに、多彩な催事・イベントが開催される。芸術・文化が身近に感じられ、海外からの訪問者へも楽しみを提供する。

① 四季折々の豊かなみどり

- ・中島公園のみどりは、春のサクラや若々しい新緑、夏の生き生きとした青葉、秋の紅葉したイチョウ並木や冬の樹形など、四季折々にそれぞれ違った表情をみせる。園路沿いの並木や水辺の樹木、日本庭園やバラ園など、場所に応じて美しい姿があり、見る者を飽きさせず、知らず知らずのうちに時間が経過していく。
- ・100年以上の歴史に育まれた5,000本余りの樹木が来訪者を優しく歓迎し、鴨々川や菖蒲池の水辺とのコントラストが見る者を引き込み、印象的な景観を形づくっている。

② 歴史の重みと風格

- ・開拓期の貯木場が地元住民の要望から札幌初の公園「中島遊園地」となり、100年以上が経つ。中島橋は当時の正面入口であり、鴨々川は蛇行する昔の姿を現代に残す。ケヤキやエゾヤナギ等は今や大木となり見る者を圧倒する。
- ・長岡安平が自然の風致を織り込んで「池泉式回遊庭園」として設計した。池の水景・借景や藻岩山への眺望は今も絶景である。
- ・国指定の重要文化財である豊平館や八窓庵をはじめ、園内や周辺には数々の歴史的資産を有し、「日本の歴史公園百選」に選定されている。

4 公園の課題

利用環境に関すること

- ・樹木の過密化・大径化により、鬱蒼としていて暗く、立ち寄りにくい場所がある
- ・ベンチやテーブルが少ないなど、休憩場所が足りない
- ・散策路がわかりづらく、利用しづらい
- ・動線が車椅子利用者に配慮し切れていない
- ・案内板・誘導サインが見づらく、歩行者が気づきにくい
- ・2か国語と5か国語の誘導サインが混在している
- ・時間帯によっては駐輪場が飽和状態である

施設・敷地に関すること

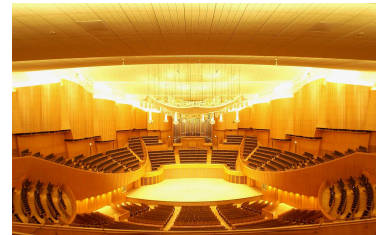
- ・北入口広場が寂しい印象があり、公園の顔に相応しい設えとは言いがたい
- ・広場のような場所が多く、公園を活用し切れていない
- ・管理事務所の場所がわかりづらく、認知されていない
- ・施設・設備等の老朽化がみられる
- ・一部の施設が、まるで公園に背を向けているような建て方である
- ・飲食等の施設が利用しづらい

③ 市民の憩い・交流・賑わいの場

- ・都心部にありながらその喧騒から一線を画す中島公園は、豊かなみどりに囲まれながら、市民の散歩や休養など日常的な憩いの場として思い思いの時間を過ごす。
- ・一方、北海道神宮例大祭（札幌まつり）をはじめ、多彩な催事・イベントも開催され、四季を通じたレクリエーションの場という役割も発揮し、賑わいをみせる。
- ・明治20年に北海道物産共進会が開催されて以来、現代においても当時と同様、市民の日常利用とともに、交流・賑わいの場であることに変わりはない。



北海道神宮例大祭



札幌コンサートホール Kitara



山内壮夫
彫刻群



豊平館



八窓庵

情報発信に関すること

- ・様々な魅力あふれる中島公園の良さを伝え切れていない
- ・各施設のイベントを含む公園全体を網羅した情報発信がない
- ・施設ごとに指定管理者が異なり、一体的な情報発信が難しい
- ・公園周辺のマップが様々作成されているが、あまり知られていない
- ・管理事務所が利用者の少ない場所にあり、情報発信する場になっていない

④ 芸術・文化の拠点

- ・中島公園は、古くから芸術・文化の拠点として市民に親しまれてきた。
- ・平成9年に開館した札幌コンサートホール Kitaraは道内初の音楽専用ホールであり、音響は世界水準といわれ、数多くの著名な演奏家が来演している。
- ・園内には世界的な彫刻家である山内壮夫や安田侃の彫刻・モニュメント等が立ち並び、そのたずまいは来訪者の目を和ます。
- ・公園周辺にも渡辺淳一文学館やシアターZOOなどが立地しており、まさに公園が拠点となって芸術・文化活動の広がりをみせている。

⑤ 国際都市としてのおもてなしの場

- ・海外からの来訪者は日本文化を感じるものを求めるといわれる。日本庭園は和の心でおもてなし、石庭や灯籠、鳥のさえずりや水の流れなど、風情を感じられる日本特有の光景が一瞬で来訪者の琴線に触れる。
- ・朝のジョギングや中島体育センターでのトレーニングなど多様なライフスタイルに適応するほか、美しい背景とともに着物を着ながらフォト撮影などは旅の思い出を提供する。
- ・公園周辺では富裕層向けホテルの整備やMICE施設の検討などが進められており、国際都市として中島公園の役割が一層期待されている。



日本庭園



中島体育センター

関係者の連携に関すること

- ・各指定管理者が様々な活動を行っているが、連携した事業は少ない
- ・連携できる事業アイデアはあるものの、実施には至っていない
- ・利用者が目的の施設に来ても、その後の相乗効果に至っていない
- ・公園と周辺事業者との関係が情報共有程度にとどまっている
- ・中島公園地域コミュニティ推進協議会が機能を十分に発揮していない

5 コンセプト・公園のあり方

≪ 歴史が紡いできた魅力の継承と新しい時代への呼応 ≫

中島公園は、札幌都心部に位置する恵まれた立地と広大な水辺や緑の存在から、市民の貴重なオアシス空間となっている。

公園がつくられてから100年以上もの歴史の中で、時代の要請に応える形で様々な施設や機能が整備・更新され、今日に至っている。札幌の歩みとともに寄り添ってきたこの長い歴史が、中島公園に歴史的・文化的資産の集積をもたらし、公園の大きな特長となり、風格を高めてきた。長岡安平の設計思想は現在も色あせていない。自然との調和を図りつつ歴史や芸術文化が息づく公園の姿は、未来に継承しなければならない。

近年、公園周辺ではMICE施設の整備計画があるほかホテル等の建設が進んでおり、国内外からの来訪者の増加が想定されるなど、取り巻く環境が大きく変わりつつある。

中島公園はこのような動きにも呼応しながら、市民に愛され、札幌が世界に誇るシンボル公園の一つとして、少しずつ進化を続けていく。

6 目指す方向性

方向性1 四季折々のみどりが彩るオアシス空間

中島公園は、都心部では貴重となる広大な緑地を持ち、豊かなみどりに存分に触れられる環境である。水と緑の景観は、四季折々に姿を変え、訪れる人を楽しませてくれる。

このような環境・景観を将来にわたって守り、育てるとともに、利用者が立ち寄りやすく、安全・安心に楽しむことができるオアシス空間として、公園づくりを進めていく。

方向性2 伝統と風格に相応しい設えやおもてなし

中島公園は、明治期に「池泉回遊式庭園」として整備されて以来、様々な変遷を経ながら、長い年月をかけて現在の設えとなった。しかし、すすきの繁華街とつながる北入口広場は公園の顔としては寂しく、一部の建物で老朽化が進む。また、園内には情景と調和しているとはいいがたい建物もある。

今後は、周辺動向や将来的な施設更新等を見据えながら、伝統と風格に相応しい設えでおもてなしを提供する。

方向性3 市民や観光客が集う交流・賑わいの場

中島公園で開催される催事・イベントは、市民にとって大事な娯楽のひと時であり、まちに活力を生み出している。

古くから芸術・文化やスポーツの場としても親しまれるとともに、子どもたちに楽しいレクリエーションを提供し、子育て世帯を支えている。

引き続き、市民への娯楽の提供を基本としつつ観光客も楽しめる活動を後押しし、交流・賑わいが生まれる取組を推進していく。

方向性4 あふれる魅力を効果的に伝える情報発信

中島公園は、四季折々のみどり、歴史、芸術・文化など様々な魅力を有し、多彩な催事・イベントが開催されるほか、園内の施設では各種コンテンツを提供しているが、情報が効果的に伝わっているとは現状いいがたい。

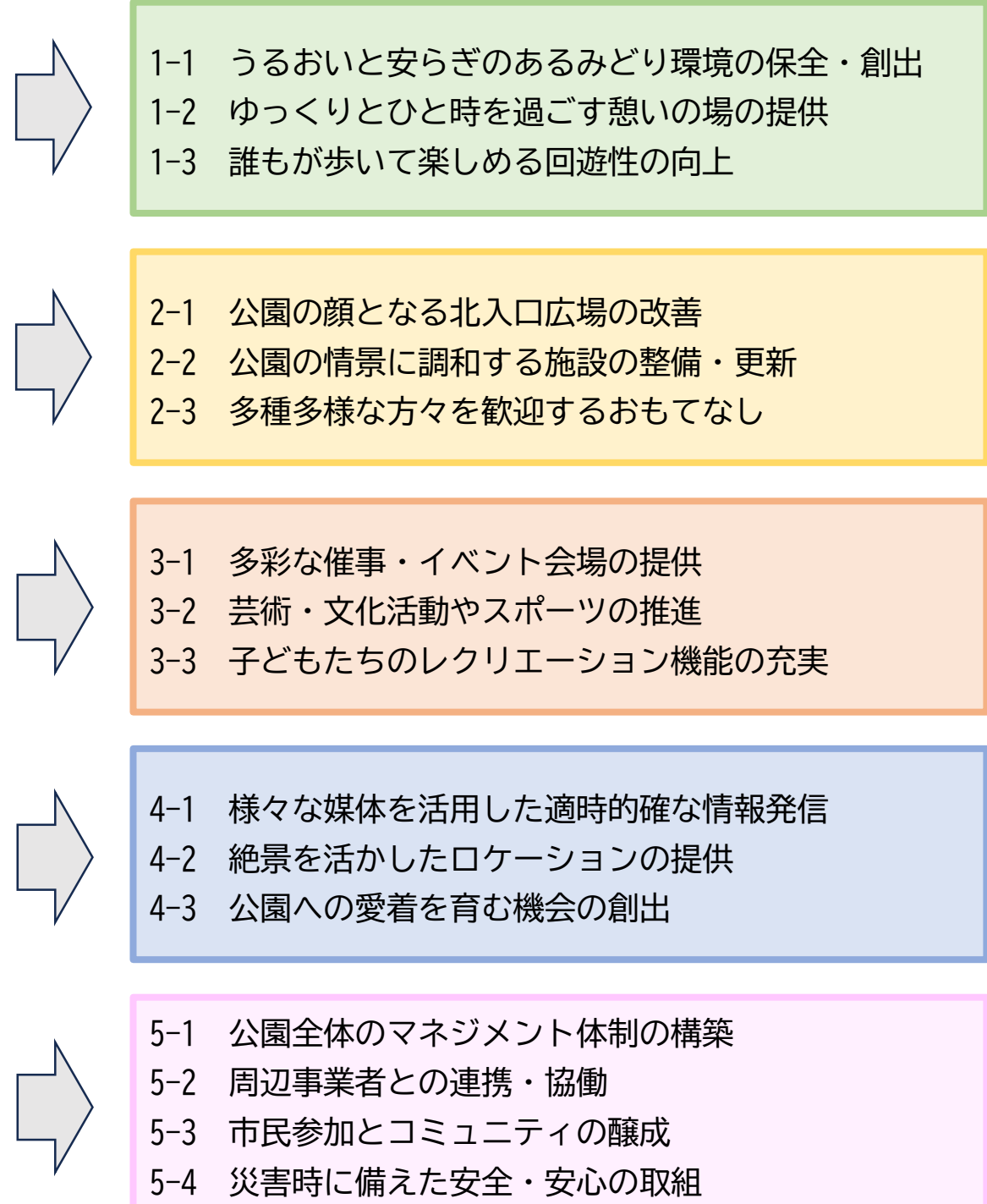
これまで以上に適時的確に伝わる情報発信を行うとともに、中島公園の魅力が認知され、愛着を深めてもらえるような取組を推進していく。

方向性5 新しい時代の管理運営

園内の施設ではそれぞれ様々な取組を行っているが、施設ごとに指定管理者が異なり、相乗効果には至っていない。公園周辺の事業者との関係も、情報共有程度にとどまっている。

未来へ魅力を継承し新しい時代に呼応していくためにも、周辺を含めた公園全体のマネジメント体制の構築を図るとともに、市民の意見を取り入れながら、災害時にも円滑に連携・協力できる管理運営を目指す。

7 取組の方向性



方向性1 四季折々のみどりが彩るオアシス空間

1.1 うるおいと安らぎのあるみどり環境の保全・創出

5,000本あまりの樹木や日本庭園、菖蒲池など、都心部にある市民の貴重なみどり環境として、うるおいと安らぎを提供してきました。この環境を適切に維持・管理し、適度に間伐を行いながら、質の向上を図っていきます。また、樹木の過密化・大径化により、利用者が立ち寄りにくくなっている場所については、将来的な施設更新等と併せて光を取り入れた整備を検討します。



- 【想定取組】
- ・みどりの適切な維持・管理による質の向上
 - ・園内樹木の整理（剪定・間伐）

1.2 ゆっくりとひと時を過ごす憩いの場の提供

中島公園には様々な魅力がある中、最も多い利用目的は「散歩や休養」であり、昔から市民の憩いの場としてその役割を果たしてきました。2050年には市民の約4割が65歳以上と推計されており、ゆっくりと安心して過ごせる場がより重要となることから、ベンチやテーブル等のある休憩場所の整備を検討し、トイレを更新する際にはユニバーサルトイレの導入を検討します。



- 【想定取組】
- ・園路におけるたまりスペース、休憩場所の整備
 - ・ユニバーサルトイレへの更新

1.3 誰もが歩いて楽しめる回遊性の向上

四季折々のみどりを観賞し、鳥のさえずりを聞きながら、約23万㎡の園内を歩いて楽しめるのが中島公園です。一方、散策路がわかりづらい、案内板・誘導サインが気づきにくいといった声も上げられています。これらの改善を検討するとともに、今後の動線整備にあたってはユニバーサルの視点に一層配慮し、誰もが安心して利用できるように回遊性の向上を図ります。



- 【想定取組】
- ・散策路の改善、ユニバーサルの視点に配慮した動線の整備
 - ・サイン等の改善

方向性2 伝統と風格に相応しい設えやおもてなし

2.1 公園の顔となる北入口広場の改善

中島公園入口は時代とともに変遷してきましたが、現在の公園の顔は、地下鉄中島公園駅に直結し、繁華街すすきのとつながる北入口広場といえます。しかし、顔としては寂しい印象があり、公園情報を伝える機能もないのが現状です。隣接地ではMICE施設の整備計画等もあることから、公園周辺の動向を見据えながら相応しい設えを検討します。



- 【想定取組】
- ・MICE施設の整備構想等を見据えた設えの検討
 - ・パークセンター（インフォメーションセンター）機能の検討

2.2 公園の情景に調和する施設の整備・更新

都心部にあり交通の利便性が高い中島公園は、時代の要請に応じて様々な施設が整備されてきました。現在も芸術・文化、スポーツ、子どもなど、幅広い分野の施設が建ち並びますが、一部の建物は公園の情景に溶け込んでおらず、老朽化もみられます。環境負荷低減の観点から、適切に修繕・補修等を行っていきませんが、整備・更新に際しては公園の情景との調和を図ります。



- 【想定取組】
- ・施設の修繕・補修等
 - ・公園の情景と調和した施設整備

2.3 多種多様な方々を歓迎するおもてなし

市民に親しまれながら100年以上が経過する中、日本庭園をはじめとした情緒豊かな日本特有の光景は、海外からの来訪者も魅了しています。公園周辺の動向から、中島公園は国際都市としての役割が一層期待されていますが、園内は多言語化に十分対応しているとはいえ、飲食機能の不足も否めないところです。市民や来街者を温かく迎えるおもてなし機能の強化を図ります。



- 【想定取組】
- ・公園情報の多言語化
 - ・公園に相乗効果を創出する飲食機能の導入検討

方向性3 市民や観光客が集う交流・賑わいの場

3.1 多彩な催事・イベント会場の提供

明治20年に北海道物産共進会が開催されて以来、現在も大規模なイベントから催事まで四季を通じて行われ、市民や観光客が集う交流・賑わいの場となっています。特に北海道神宮例大祭（札幌まつり）では、多数の露店が並び、子どもからお年寄りまで園路を埋め尽くしています。今後も多くの方が安全・安心に楽しめる多彩な催事・イベント会場として提供していきます。



- 【想定取組】
- ・多彩で安全・安心な催事・イベント会場の提供
 - ・指定管理者による自主事業の実施

3.2 芸術・文化活動やスポーツの推進

芸術・文化の拠点として、各施設ではそれぞれの特長を生かしたプログラムを展開しています。また、古くからスポーツの場としても知られていますが、ジョギングコース、ウォーキングコースとして利用されるほか、歩くスキーコースとしても定着しています。引き続き、芸術・文化の拠点及びスポーツの場として、各活動の振興を図っていきます。



- 【想定取組】
- ・各施設によるプログラムの展開
 - ・芸術文化活動・スポーツの場の提供

3.3 子どもたちのレクリエーション機能の充実

中島公園にはもちろん遊具等も備えており、夏季の鴨々川水遊び場は子どもたちに人気となっています。日本初の公設である中島児童会館・こども人形劇場こぐま座は、現在も楽しい遊び・娯楽を提供しています。少子化の時代において、子育て世帯を支える子どもの遊び場や若者の居場所は重要であり、将来的な施設更新等と併せて遊具の配置再編や質の向上を図るなど、レクリエーション機能を充実させます。



- 【想定取組】
- ・遊具の配置再編・質の向上
 - ・子どもたちのレクリエーションの場の提供

方向性4 あふれる魅力を効果的に伝える情報発信

4.1 様々な媒体を活用した適時的確な情報発信

様々な魅力を有する中島公園ですが、残念ながらその良さを伝え切れておらず、園内の各種情報を全体的に網羅した発信がないのも現状です。今後はウェブサイトやSNS、回遊マップなど、情報媒体の特性に応じた効果的な活用方法を検討の上、市民や観光客が中島公園の良さを理解し、興味を示し、訪れたいという発信を適時的確に行っていきます。

- 【想定取組】
- ・WEBやSNS、回遊マップなど情報媒体の特性に応じた情報発信
 - ・園内・周辺施設とのイベント情報の共有、各施設利用者への情報提供



4.2 絶景を活かしたロケーションの提供

公園利用申請件数を目的別に見ると、商用写真撮影等の景観目的が群を抜いて多く、中島公園の景観は企業からも高い評価を得ていることがうかがえます。昨今はスマートフォンによる個人の撮影・発信も大きな影響力があり、中島公園は多くの絵になる「映えスポット」を提供できることから、公園のルールに理解をいただきつつ、ドラマや映画等を含む企業・個人の撮影・発信に積極的に協力していきます。

- 【想定取組】
- ・フィルムコミッション（テレビ・映画）への協力
 - ・「映えスポット」の情報発信



4.3 公園への愛着を育む機会の創出

中島公園は、その豊かなみどり環境から、アオサギやアカゲラ、シマエナガなど、都心部では見かけることが珍しい野鳥のほか、キタキツネやエゾリスなどの野生動物が見られ、観察会が開催されています。また、遠足や野外学習、写生会など、教育活動の場としても利用されています。こうした機会は公園への愛着形成の契機となることから、更なる機会創出につながる情報発信を行っていきます。

- 【想定取組】
- ・野鳥観察会、生き物観察会等の実施
 - ・ガイドツアーの実施
 - ・教育活動、生涯学習の場の提供



方向性5 新しい時代の管理運営

5.1 公園全体のマネジメント体制の構築

園内の各施設では様々な取組を行っていますが、施設ごとに指定管理者が異なり、連携した事業は少ない状況です。公園全体の魅力向上に取り組む上では、主導・統括するマネジメント体制が重要となりますが、一朝一夕に構築できるものではありません。当面は公園関係者が連携した実証実験を繰り返しながら課題等を整理・検証し、その結果を踏まえて、公園の未来をつくるマネジメント体制の構築を図ります。

- 【想定取組】
- ・公園関係者が連携した実証実験の実施
 - ・マネジメントに関する課題等の整理・検証
 - ・公園全体のマネジメント体制の構築



5.2 周辺事業者との連携・協働

中島公園周辺には宿泊施設や飲食店など様々な事業者がありますが、公園との関係は情報共有程度にとどまっています。公園全体の魅力向上に取り組む上では、周辺事業者及びその利用者との関わりも非常に重要となります。関係者による実証実験にあたっては、周辺事業者にも協力を得たうえで実施し、課題等を整理・検証のうえ、周辺事業者との連携・協働体制の構築を図ります。

- 【想定取組】
- ・周辺事業者の協力を得た実証実験の実施
 - ・周辺事業者との連携・協働に関する課題等の整理・検証
 - ・周辺事業者との連携・協働



5.3 市民参加とコミュニティの醸成

中島公園で行われる催事は市民主催のものも多く、美しい美観を誇る公園花壇は市民ボランティアによって支えられています。公園を利用するだけでなく、何らかの形で管理運営に参加し、楽しみながら活動してもらうことは、コミュニティの醸成にもつながります。市民と協力しながら、市民意見を取り入れた公園づくりを行い、公園を通じてコミュニティの醸成を図っていきます。

- 【想定取組】
- ・市民活動の場の提供
 - ・公園ボランティアとの連携・協働
 - ・市民意見を取り入れた公園づくり



5.4 災害時に備えた安全・安心の取組

公園の重要な役割に防災機能があります。札幌市内の公園は地震発生時の一時避難場所となっており、中島公園は大規模火災発生時の緊急避難場所にも指定されています。また、昨今は全国的に集中豪雨による被害も多数発生しています。災害時に備えて関係機関と円滑に連携・協力できるよう取り組むとともに、集中豪雨対策として周辺への被害を抑制する流域貯留施設を整備するなど、防災機能を高めます。

- 【想定取組】
- ・災害時に備えた関係機関との連携・協力の取組
 - ・流域貯留施設の整備



◎ 今後の取組にあたって

- 中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想では、北入口広場及びその隣接地を「重点再整備エリア」とし、「MICE・ホテル施設と調和した魅力的な空間」を創出することとしている。これを踏まえ、本プランについても、周辺のまちづくりの動向や開発プロジェクトと歩調を合わせながら推進していく。
- また、再整備の効果を高め、エリア全体の魅力向上につなげていくためには、空間や機能など一体的な検討が重要であることから、関係する庁内部局はもちろん、事業者とも連携・協力しながら、エリア全体に相乗効果を創出していく。
- なお、周辺の開発プロジェクトについては、現時点で構想・検討段階の事柄が多く、今後、内容やスケジュールなど全体像が明らかになってくる。
- 本プランは周辺動向を十分に踏まえて取り組む必要があるため、最終的な策定・公表については関係部局と調整を続けたうえで行うこととするが、想定した取組についてはできるものから実施していくこととする。
- 特に関係者が連携した実証実験は、継続して行うことにより、課題等の整理・検証の結果を蓄積できることに加え、関係者間の連携強化や中島公園の更なる魅力の掘り起こしにもつながることから、先行して取り組んでいくものとする。